

## 蚊媒介感染症に注意！！ ～夏に向けて“蚊”対策を～

これからの季節、蚊が媒介する感染症に注意が必要です。今年の夏は、一昨年、日本国内で160人が感染した「デング熱」に加え、現在世界で感染が広がっており、日本でも9例の輸入感染例を認める「ジカウイルス感染症（ジカ熱）」の国内発生が懸念されています。このようなウイルスを媒介するやぶ蚊「ヒトスジシマ蚊」は、日本国内にも生息しており、5月から羽化の時期を迎え、10月末まで繁殖を繰り返すといわれています。国においても6月を「夏の蚊対策広報月間」として、国民運動が展開されています。夏に向けて、蚊の発生防止や駆除、日々の虫除け対策に気をつけましょう。



日本に生息する「ヒトスジシマ蚊」

### \*\*\*この夏、特に注意が必要な「デング熱」と「ジカウイルス感染症（ジカ熱）」\*\*\*

#### 【デング熱】

ネッタイシマカやヒトスジシマカ等の蚊によって媒介されるデングウイルス感染症で、東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国で多く発生しており、アフリカ、オーストラリア、中国、台湾でも発生報告があります。

◆**症状**：3～7日の潜伏期間後に、突然の発熱、頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛などが現れます。発熱は2～7日間継続し、また、発症後3～4日後より、胸部、体幹から四肢、顔面に発疹が出現します。これらの症状は、通常1週間程度で治まりますが、ごくまれに出血傾向などを呈する致死的病態が出現することがあります。

※感染者の50～80%が不顕性感染で終わるとされています。

◆**治療**：症状に応じた対症療法（輸液や解熱鎮痛剤；サリチル酸系は禁忌）

#### 【ジカウイルス感染症（ジカ熱）】

ネッタイシマカやヒトスジシマカ等の蚊によって媒介されるジカウイルス感染症で、アフリカ・東南アジア・南アジア・カリブ海諸国・中南米・太平洋島諸国で多く発生しています。 ※性行為による感染事例も報告されています。

◆**症状**：2～7日の潜伏期間後に、軽度の発熱、発疹、結膜充血、関節痛、倦怠感、頭痛などが現れます。これらの症状は、デング熱よりも軽症とされており、通常4～7日で治まります。 ※ジカウイルス感染症の流行地域において、神経症状を呈するギラン・バレー症候群の発症や、小頭症の新生児が増加していることが報告されており、関連性が示唆されています。

※感染者の80%が不顕性感染で終わるとされています。

◆**治療**：症状に応じた対症療法（輸液や解熱鎮痛剤）

#### ★注意事項★

- ・妊婦及び妊娠の可能性のある方は、可能な限り、流行地域への渡航を控えてください。
- ・流行地域から帰国した男性は、症状の有無に係らず最低8週間、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為を控えるか性行為の際にコンドームを使用すること。また、流行地から帰国した女性は、最低8週間は妊娠を控えることが推奨されます。

### \*デング熱、ジカ熱を媒介する「ヒトスジシマカ」\*

◆**国内分布地域**：青森県以南の地域

◆**吸血時間帯**：日中（朝方～夕方）

◆**主な幼虫の発生スポット**：卵から成虫に羽化するまで、蚊は水の中で過ごします。その生息場所も様々で、下水溝、放置された空き缶・古タイヤ・墓地の花立など、少しでも水がたまる場所は、すべて蚊の発生源となります。

**植木鉢の受け皿等、屋外の水が溜まる場所はこまめに掃除をする等、蚊の発生防止に努めましょう。**

◆**主な成虫の潜伏スポット**：ヒトスジシマカの成虫は、植物の茂みに潜んでいます。公園などの茂みだけでなく、ガーデニングなど、植物のあるところは注意が必要です。

また、ビアガーデンやバーベキュー場、花火大会などが集まる場所には蚊も集まります。**外出時は長袖・長ズボンの着用や虫除けスプレーの使用等、虫除け対策をしっかりと行いましょう。**

◆**蚊に狙われやすい人は?**：吸血行動を行う産卵時の蚊は、体温や湿度、吐く息や皮膚から出る二酸化炭素、汗などに反応して人を感知しています。体温が高い人、汗をかきやすい人等は蚊に刺されやすい傾向があります。また、血液型がO型の人や、飲酒後の人は蚊に刺されやすいという調査結果もあります。

### \*\*\*海外渡航時に注意が必要な感染症\*\*\* ～夏休みを利用して海外旅行を計画している教職員、学生のみなさん：海外滞在中に注意が必要な感染症及びその予防対策について確認しておきましょう!!～

主な感染源	注意すべき感染症	主な発生地域	予防方法	主な症状			
				発熱	下痢	その他	
蚊	デング熱	熱帯・亜熱帯地域(アジア・北アフリカ・アフリカ・中南米・中東)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長袖、長ズボンを着用する。</li> <li>・素足でのサンダル履きは避ける。</li> <li>・可能な限り、網戸やエアコンが備わっているホテルに滞在する。</li> <li>・室内では、蚊取り線香等の蚊用の殺虫剤を使用する。</li> <li>・外出時は、ディート(DEET)などの有効成分が含まれている虫除け剤を皮膚の露出部につける。</li> </ul>	◎	○	頭痛、眼窩痛、筋肉・関節痛、発疹	
	ジカウイルス感染症（ジカ熱）	アフリカ・東南アジア・南アジア・カリブ海諸国・中南米・太平洋島諸国		◎ 軽度		発疹、結膜充血、筋肉・関節痛、倦怠感、頭痛	
	マラリア	熱帯・亜熱帯地域(アジア・アフリカ・中南米)		◎	○	悪寒、頭痛、嘔吐、関節痛、筋肉痛	
	チクングニア熱	東南アジア・南アジア・アフリカ・中南米		◎		頭痛、筋肉・関節痛、発疹、倦怠感、関節の腫れ	
	黄熱	アフリカ・南アフリカ		◎		頭痛、筋肉痛、悪寒、嘔吐	
	ウエストナイル熱	北アメリカ・ヨーロッパ南部・アフリカ・中東アジア		◎		頭痛、筋肉痛、倦怠感	
	日本脳炎	アジア		◎		頭痛、意識障害、昏睡	
食べ物・水	E型肝炎	世界各地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生水・氷・生肉・生の魚介類・カットフルーツの飲食は避ける。</li> <li>・十分に加熱調理した食品を食べる。</li> <li>・ミネラルウォーターや、一度沸騰させた水を飲む。</li> <li>・こまめに手洗いをする。</li> </ul>	◎		倦怠感、黄疸	
	A型肝炎	世界各地(特に水道設備が整っていない地域)		◎		倦怠感、黄疸	
	赤痢	世界各地(特に水道設備が整っていない地域)		◎	◎(時に血便)	激しい腹痛	
	腸チフス	世界各地(特に水道設備が整っていない地域)		◎	◎	倦怠感、除脈	
	コレラ	世界各地(特に水道設備が整っていない地域)			◎(水様便)	嘔吐、下痢による脱水	
ノロウイルス	世界各地		◎	激しい嘔吐			
事故・ケガ	破傷風	世界各地	・転倒やケガに注意する。			開口障害、顔面筋の緊張、全身痙攣	
動物	狂犬病	世界各地	・野犬等、野生動物との接触を避ける。	◎		治癒した受傷部の痛み、知覚過敏、恐水・恐風症状	
	鳥インフルエンザ	アジア・アフリカ・中東	・農家、市場、動物園などの鳥類との接触を避ける。・こまめに手洗い、うがいを行う。	◎	○	呼吸器症状	
	MERS	中東	・十分に加熱調理した食品を食べる。・咳やくしゃみの症状がある人、動物（ラクダを含む）との接触を避ける。	◎	○	呼吸器症状	
	エボラ出血熱	西アフリカ	・流行地への渡航を控える。野生動物や患者に触れない。洞窟に入らない。	◎	○	頭痛、筋肉痛、下血、吐血	
人	接触・飛沫 空気	麻疹	世界各地(特にアジア・アフリカ)	・予防接種を受けておく。	◎	○	咳、鼻水、結膜充血、発疹
	接触・飛沫	風疹	世界各地(特にアジア・アフリカ)	・予防接種を受けておく。	◎		発疹、リンパ節腫脹
	経口	ポリオ	アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタン	・予防接種を受けておく。こまめに手洗いを行う。・十分に加熱調理された食品を食べる。	◎	○	手足の麻痺

【厚生労働省HP「海外で注意しなければいけない感染症(平成28年4月)」より抜粋】

◆海外渡航に関する情報はホームページ※<sup>1</sup>からも入手できます。事前に必ず確認を行ってから渡航しましょう。また、渡航日数に関わらず、海外渡航時は渡航前に「海外渡航届」※<sup>2</sup>を上長(学生は教務学生課)に届け出てください。帰国後は、一定期間(2～3週間程度)体調を確認し、体調に異常がみられた場合には速やかに上長に報告のうえ、保健管理室(学生は学生保健室)までご連絡ください。

※**1**：関連ホームページ：・外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/> ・厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/> ・国立感染症検疫所 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

※**2**：海外渡航届：学内ホームページ(教職員専用→保健管理センター)もしくはG X 端末(各部門からのお知らせ→保健管理センター)の「ダウンロード」より入手できます。

【問合せ先】保健管理室：10号館1階(時間外外来の奥)、内線：6544、外線：0798-45-6544